

平成24年度 外国人留学生入学試験、中国引揚者等子女入学試験 小論文
出題の意図と解答の傾向

【出題の意図】

今回の問題は、『子どもが育つ条件—家族心理学から考える』（柏木恵子 岩波新書 2008）から出題した。著者によれば、「社会の制度、考え方、モノなどは家族に否応なく入り込み、様々な影響を与え、家族のかたちにも機能にも変化を促さずにはおきません。その影響には「良い」影響もあればそうではない影響もあり、まさに「介入」というのにふさわしい様相を呈します」（同書 P106）。こうした家族のあり方を考えてもらいたかった。

出題のねらいは以下の2点にあった。

大学での勉学の時間は、社会に出て自立して生きる準備を行う、いわば猶予の期間と言える。若者が、自身が育った家族（家庭）から離れ社会という未知の状況に出ていくとき、希望や期待、不安と覚悟があるでしょう。社会の中で自力で生きていくにはどのような能力が必要と、若者は考えているのか、これについて考えてもらいたい。

2点目は若者の家族観についてである。「家族（家庭）」は社会を構成する基盤の単位であるが、今の日本社会は晩婚化・未婚化、さらに少子化が進み、「家族」が人々をひきつける力（吸引力）を失いつつあるかに見える。社会における「家族」の役割は何か、そして若者は家族にどのようなことを期待しているのかを問うた。

今回の出題にあたっては、以上の問題についての自分の考えをどのように表現するのか、論理力と日本語の運用力、論述力を見ることに主眼をおいた。

【模範解答・採点の基準と実際の解答の傾向】

1 全体について

全体的に見ると、語学の面では以下のような不正確、不足が目立った。

- ・文章構成がうまくいかず、論旨が明確でなく論理の一貫性が無いものがある。
- ・文法：自・他動詞の混乱、格助詞の間違い・脱用等
- ・語彙・表現力の不足：話し言葉で書く等
- ・誤字（中国簡体字）・脱字など

内容では、小論文の論拠として卑近な例（自分の家族、子ども時代の思い出、アルバイトなど）が多く、それでも論拠になっていればよいのだが、ほとんどのものはそこまで昇華できておらず、なかには感想文になってしまったものもあった。受験者のほとんどは20代前半の、経験の少ない若者と思われるので現在の時点で多くを期待するのは無理かもしれないが、問題提起として今後を期待したい。

2 設問ごと

設問1 漢字の読み5問

「侵入：しんにゅう」

「好んで：このんで」

「運んで：はこんで」

「一因：いちいん」

「爽快感：そうかいかん」

音読み3問、訓読み2問を出題。音読みより訓読みには不正解が多く、中国語母語話者の弱点（意味と音読みは中国語からの類推が可能だが、訓読みがおろそか）が見られる。音読みの中では「爽快感」の正解率が低く、「さわかいかん」「しょうかいがん」など音訓の混乱、清濁（有声と無声）の不正確さも見られた。

設問2

模範解答：電気製品など文明の利器の出現が家族を家の行事から解放、個人の自由を増すが、家族のまとまりも失われる

文脈の該当部分をそのまま引用したものが多かったが、字数制限によりまとめる段階で文法の誤りが生じているものが目立った。

設問3

模範解答：家族が協力して働き一つのことを成し遂げる喜びや、清掃の爽快感や満足感の共有

正答率が高く、該当部分の引用ではなく自分自身の表現での正答も多かった。この問いは家族の中の子どもの視点に立つものであり、若者自身が共鳴でき、理解しやすいものであったようだ。

設問4

模範解答：子供の自発性を尊重し自立を促す（子供を甘やかさない）

もっとも正答率が低かった。設問に正確に答えた学生は全体の4分の1、半分以上が逆の「子どものために親ができるだけのことをしてやるべき」としており、文意または設問の意味が理解できなかったものもいた。

その理由として以下のことが考えられる。

- ① 読解力の不足：「(こどもにできることは親は) あえてしてやらない」の副詞「あえて」を鍵として「なぜ親は子どもにしてやらない」のかを理解する(行間を読む)ことができない。
- ② 中国の社会事情(一人っ子政策)の影響：子どものためにできるだけのことをしてやるのが良い親であり、それによって競争に勝つことができるという社会通念の固定が影響していたように思える。

設問5：小論文

採点の基準として以下の点を重視した。

- ・明確な論旨(自身の考えをはっきり持っているか)
- ・論理力(根拠に基いた結論となっているか)
- ・表現力(正確に表現できているか)

社会を生きる力として多かったものは、自立力、協力・協調性、適応力(人間関係を含め)、コミュニケーション力、体験に拠る自信などである。家族による支援をあげたものもいたが、社会における家族の役割という視点ではなく、家族のぬくもり、暖かさという心情的なものに関してであった。

迷いなく書かれている文章が多かったことから、今回の小論文のテーマは受験者にとって書きやすいものであったと推測されるが、残念ながらほとんどの答案は深く掘り下げた論理的な内容にはなっていなかった。若者の未経験、経験不足から生じる現時点での限界があらわれたものと思われる。

設問6：小論文(中国引揚者等子女入学試験問題のみ)

採点の基準としては以下の点を重視した。

- ・問題を発見する：社会が家族にもたらした影響が捉えられているか
- ・客観性と視点の一貫性
- ・日本語の表現力：考えを正確に伝えられているか

答案は平易な日本語で書かれてはいたが、話し言葉の性格が強く、また不正確な部分も目立った。問題文の「社会が家族に侵入した結果としてどのようなことがあるか」という問いに対する解答に際して、努力の跡は見られたものの、具体的な論証があげられていない点は問題であった。